

1 櫓門に接続する土塁と礎石・瓦集積



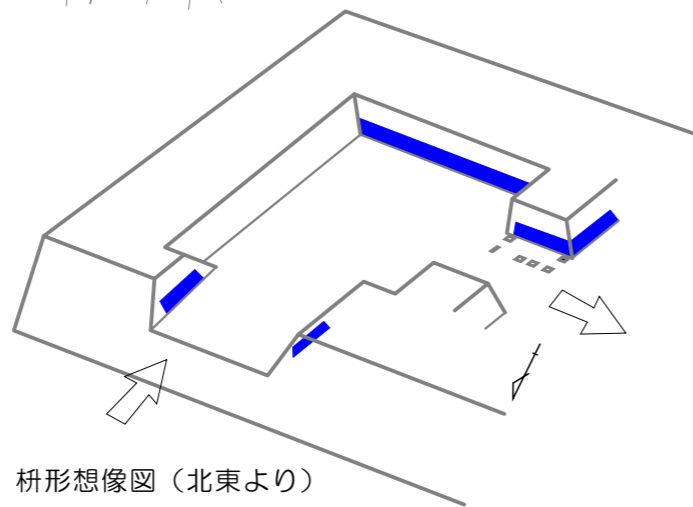
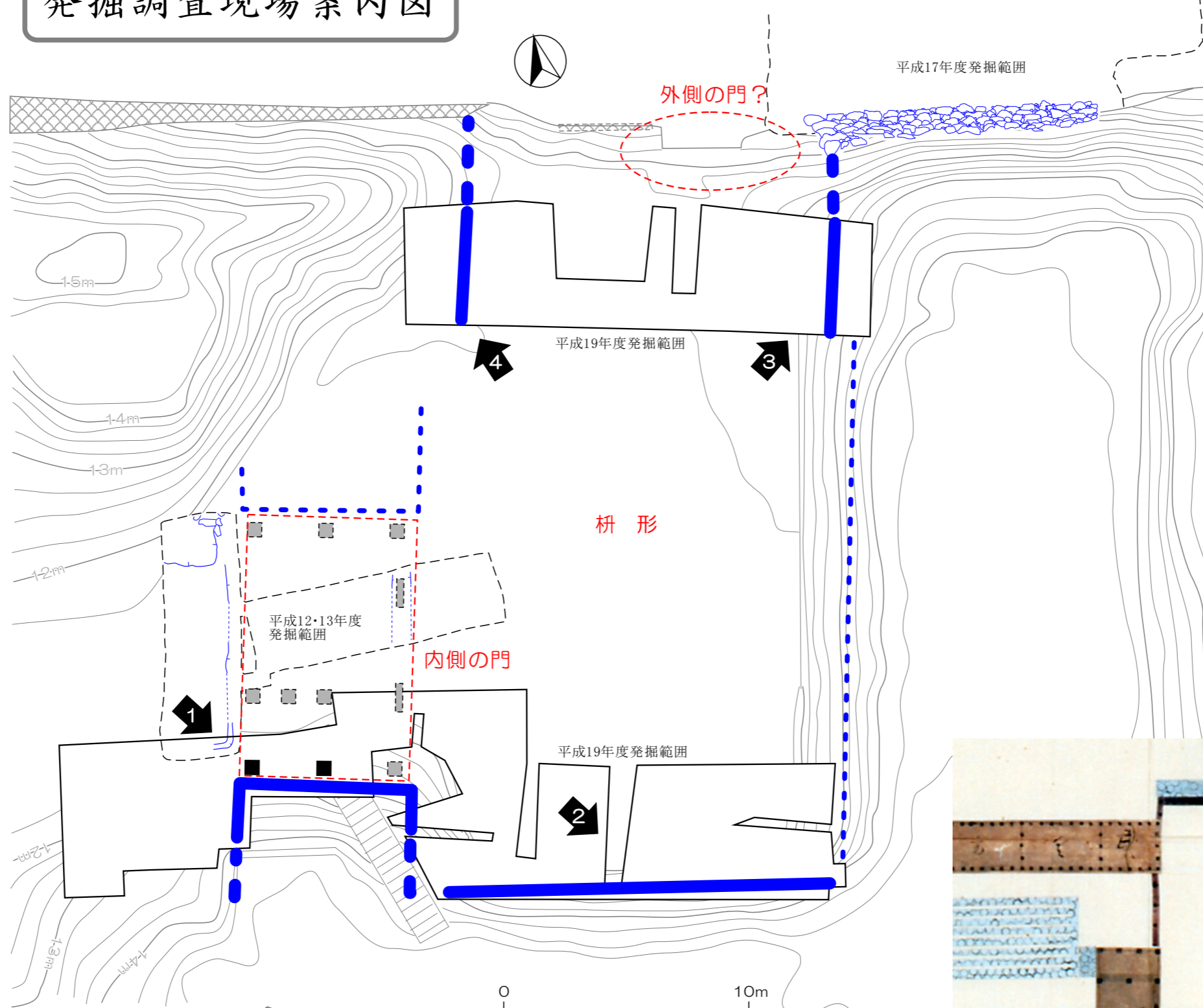
枅形内側の櫓門に接続する土塁です。土塁の裾は石垣で補強されています。
 櫓門は1階が門、2階が櫓になっていて、櫓は土塁の上ののっていました。
 石垣は門が建っていた当時、見える場所だけ、砂岩をきれいに平らに割った石を用いていました。本丸の玄関にあたるため、見栄えを意識していたようです。
 砂岩には石を割ったときに掘られた「矢穴」という穴が残っています。
 ◇
 礎石は門の南西角とその東隣の柱を支えたもので、砂岩でできています。
 ◇
 土塁の西には瓦が大量に出土しました。これは明治の初めに櫓門を取り壊したときに、捨てられたものと見られます。

2 枅形南辺の石垣



大部分がチャートという石を使っています。枅形の南辺にある石垣で、推定の長さは17mになります。一部分は明治以降に積み直している可能性があります。

発掘調査現場案内図



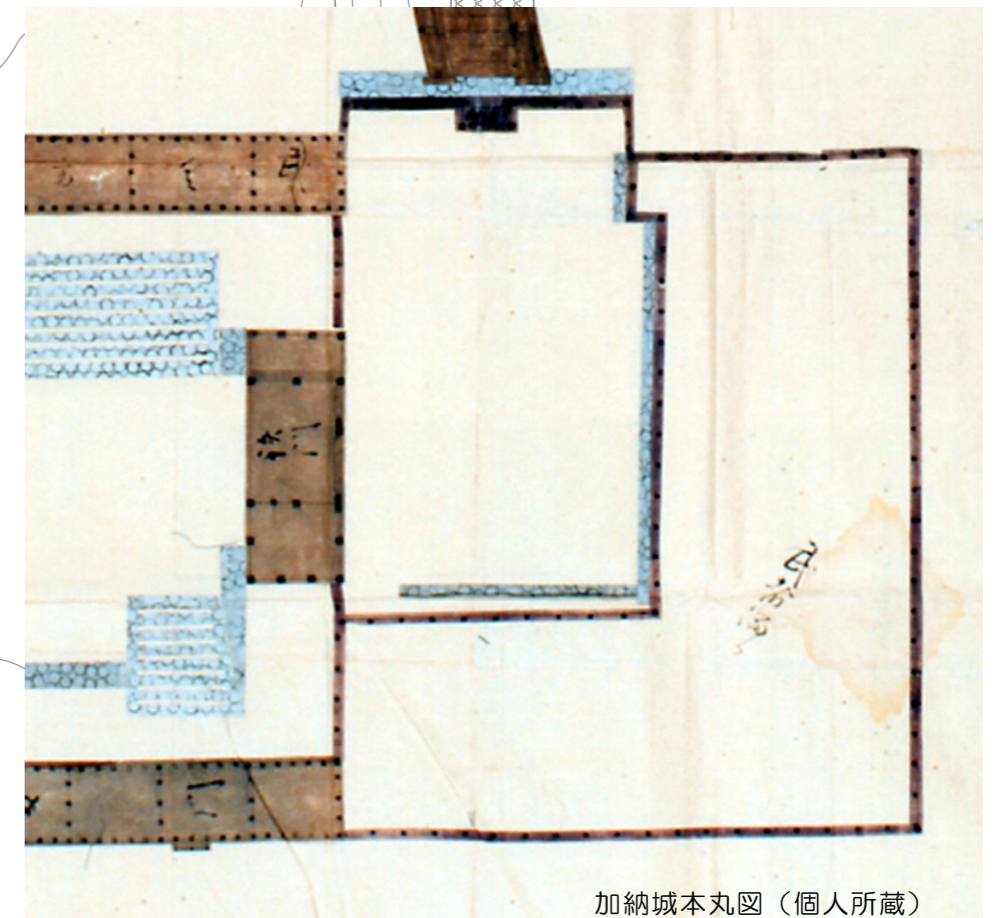
枅形想像図（北東より）

- 今回見つかった石垣
- 推定される石垣
- 不明な石垣
- 今回見つかった礎石
- 絵図から推定される礎石

3 4 枅形入口部分の石垣



枅形の入口の両脇の石垣です。この間のどこかに外側の門がありましたが、今回の調査では分かりませんでした。



加納城本丸図（個人所蔵）

用語解説

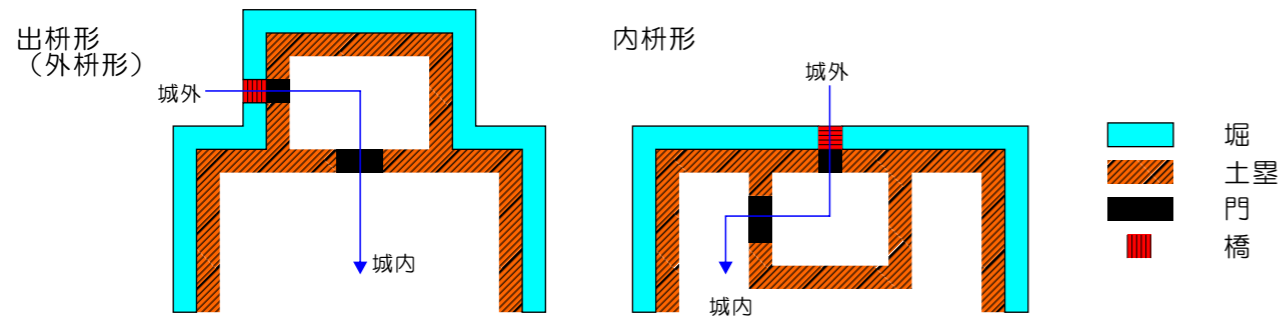
【土塁】（どるい）

堤状の盛土。近世城郭では内外とも石垣を築き、崩落を防止することが多い。加納城本丸の周囲には長さ約600mが残っている。

【枅形】（ますがた）

城の出入り口に設けられた防御施設で、近世城郭で多用される。2つの門の間に四角形の広場を造り、隣り合う辺にそれぞれ門を配置する。外側の門は「高麗門」、内側の門は「櫓門」を建てることが多い。枅形が外に突出したものを「出枅形（外枅形）」、内側に入り込んだものを「内枅形」という。

出枅形は、徳川系城郭でも初期のものに多く、中でも加納城はその初現にあたることから、「加納城型」ともいわれている。他の例は水口城（滋賀県）、二条城（京都府）など。



【櫓門】（やぐらもん）

門の上に櫓（建物）をのせた構造の門。門の上から迎撃ができるため、防御性が高い。西日本の場合、門の両脇に石垣を造り、櫓自体は土塁の上のっていることが多い。その場合、門の柱は石垣の下に、櫓の柱は石垣の上に立てていた。

絵図を見る限り、加納城本丸大手の櫓門もこのような構造で、門の部分の大きさは東西3間、南北5間、櫓の部分は南北7間と見られる。

【高麗門】（こうらいもん）

上から見たとき「コ」字形に屋根を架けた城門。柱は4本ある。扉が閉まっても、開いても雨に濡れない。また控の柱があるため、転倒しにくい。



丸亀城櫓門

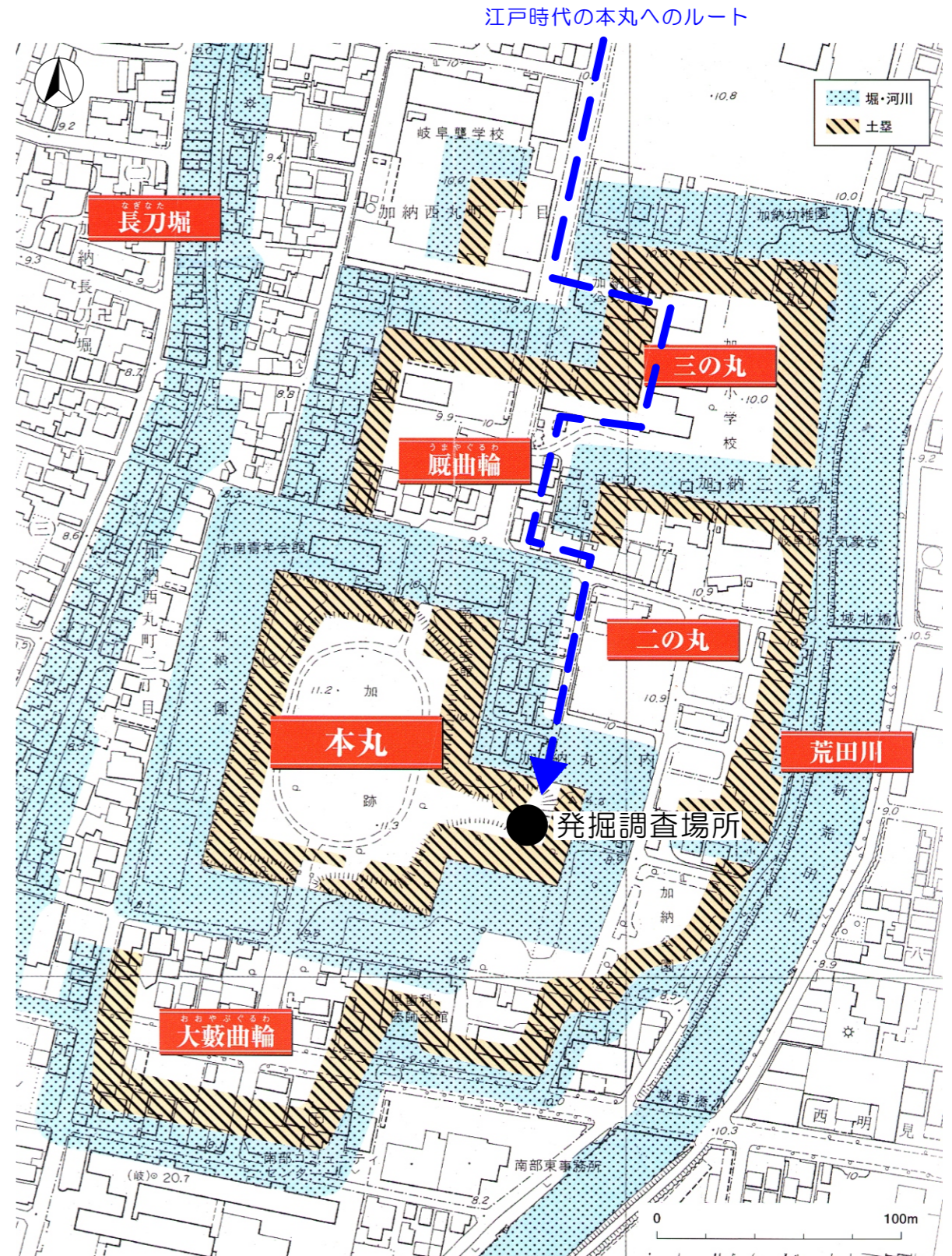


江戸城高麗門（内側から）

加納城跡発掘調査現場公開資料

「そうです。加納の日！です」

平成20年3月8日（土）
10:00~12:00



岐阜市教育委員会
(財)岐阜市教育文化振興事業団

【お問い合わせ先】

岐阜市教育委員会 社会教育室 058-265-4141（内線6357）
(財)岐阜市教育文化振興事業団 埋蔵文化財調査事務所
058-241-8122 URL <http://www.gifu-gif.ed.jp/org/maibun/>